



地域支援センター「みみらんど・郡山」

「令和元年度・第5回きこえとことばの基本研修」

テーマ「聴覚障がい児の社会自立のための言語指導について」

10月2日（木）、聴覚支援学校平校嶋原育子教諭を講師に第5回きこえとことばの基本研修会が行われました。

体験を基に、ことば（日本語）を獲得していく過程や、人との関わりの中での心の変化など、具体例をとおして分かり易くお話されました。



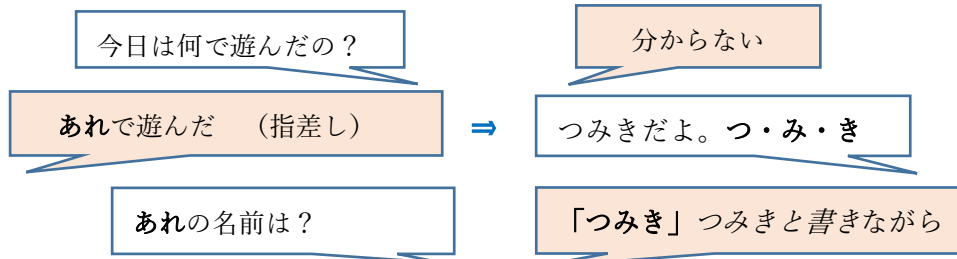
○ 自己紹介

現在も TPO に応じて、手話、聴覚口話、筆談を使い分けており、視覚的コミュニケーション手段、手話通訳の情報保障を必要とする。

○ 「ことば」（日本語）を獲得した経験

好奇心を持つ・・・わからないことは、母親や教師にすぐ聞いた身に付けた言葉・・・必ず使うようにした

こそあど言葉を「ことば」に変える



濁音、半濁音、似た言葉

「たばこ」「たまご」など 口形が同じで聞き取りが難しい
正確に覚えるまで何度も繰り返して覚えた

○ いろいろな人とかかわる「気持ち」を育てる

分からないこと当たり前、自分は我慢するという生活 → 困り感が増えた
→ 手話でのコミュニケーション → 自分を受け入れる → 複数の考え受け入れる
→ 会話は自己理解にもつながる。

○ 社会で生きていくうえで大切なこと

- ・ TPO に応じて相手に伝わるコミュニケーション手段を身に付けること。
- ・ いろいろな人たちとかかわる気持ちを持つこと

< 受講者の感想 >

- ことばの獲得には好奇心を持つこと、会話を繰り返すことが大切であることを感じた。
- 社会に出て、疎外感を感じる状況にならないように、コミュニケーションをとることの大切さを伝えていきたいです。
- 「考えるやりとり」を意識しながら、子どもたちから出る「ことば」を大切にしていきたい。